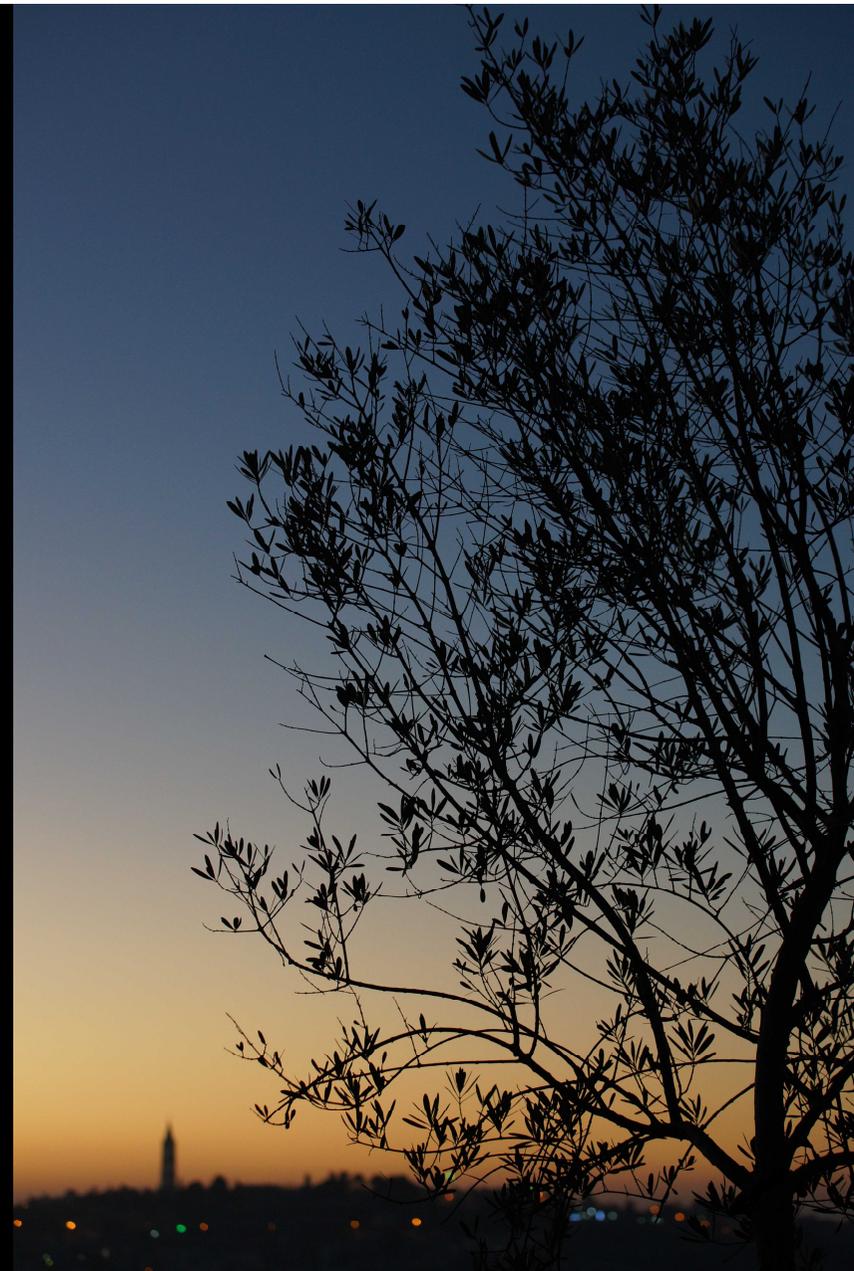


終末論

ルカ福音書21:5～36

「世の終わりの しるし」

～主イエスに学ぶ
終末のタイムスケジュール～



【今日のアウトライン】

0. 今という時代

I. 教会時代全般

反キリスト、戦争、迫害

II. エルサレム陥落(AD70年)

III. 大患難時代

世の終わりの7年間

IV. 携拳

V. まとめと適用

今を生きる心構えとは？

起きる順番

I. 教会時代

エルサレム陥落
弟子たちの迫害

II. 携拳

III. 大患難時代

天変地異・大災厄
イスラエルへの大迫害
イスラエルの民族的回心
主イエスの再臨

0. 今という時代に



【新型コロナウイルス】

■ 個の病気という視点では？

8割は軽症。致死率は1%未満。

➡過度に恐れる必要はない。

■ 公(社会全体)の病気という視点では？

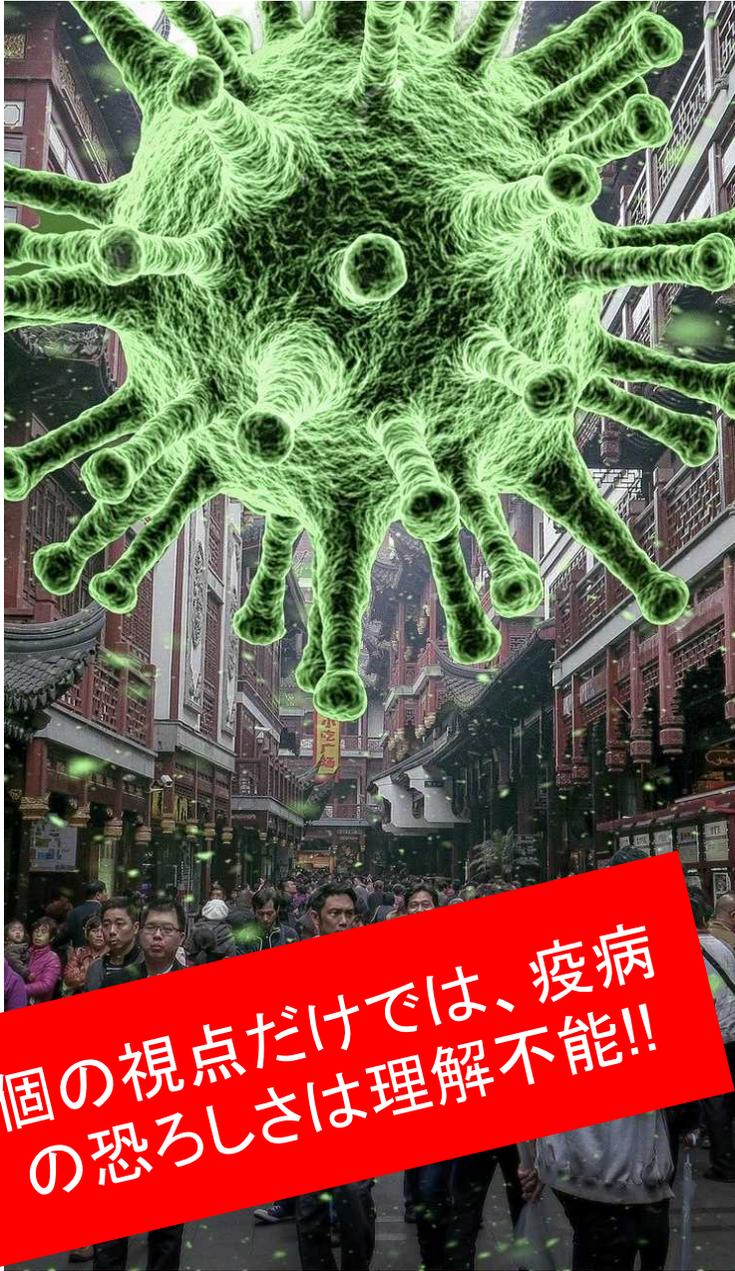
重篤率が5%でも医療崩壊の危機に!!

➡各国で非常事態宣言が!!

■ 1918年のスペインインフルエンザは、

致死率2%。世界の死者は1億とも!!

➡世界大戦以上の死者が!!



個の視点だけでは、疫病の恐ろしさは理解不能!!

【新型コロナウイルスの恐ろしさ】

■ 軽症で無自覚のまま染源となる可能性が!!

■ ウイルスは、変異して、強力になることも!!

➡ イタリアの被害の大きさの一因とも!!

【警鐘がならされている新たな疫病の流行】

■ かつてない強毒性の新型インフルエンザ

➡ 致死率20%以上とも!!

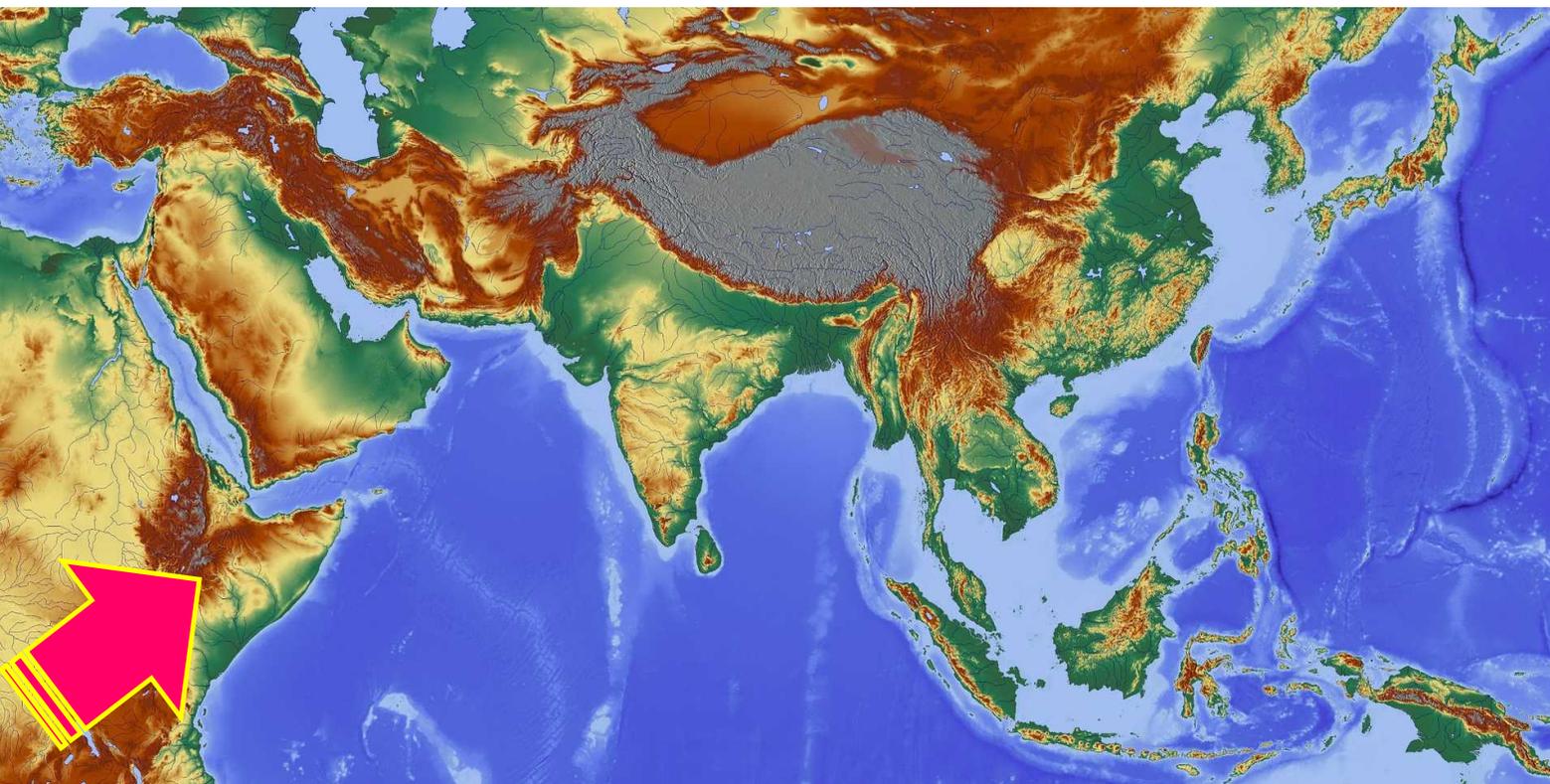
■ エボラ出血熱、デング熱...etc

これからも、さらなる疫病が出現する!!



【バッタの害】

- 昨年11月、東アフリカで発生したバッタの大群が、近年ない速度で激増。農作物に甚大な被害が。中東を抜け、アジアのパキスタンまで渡来。

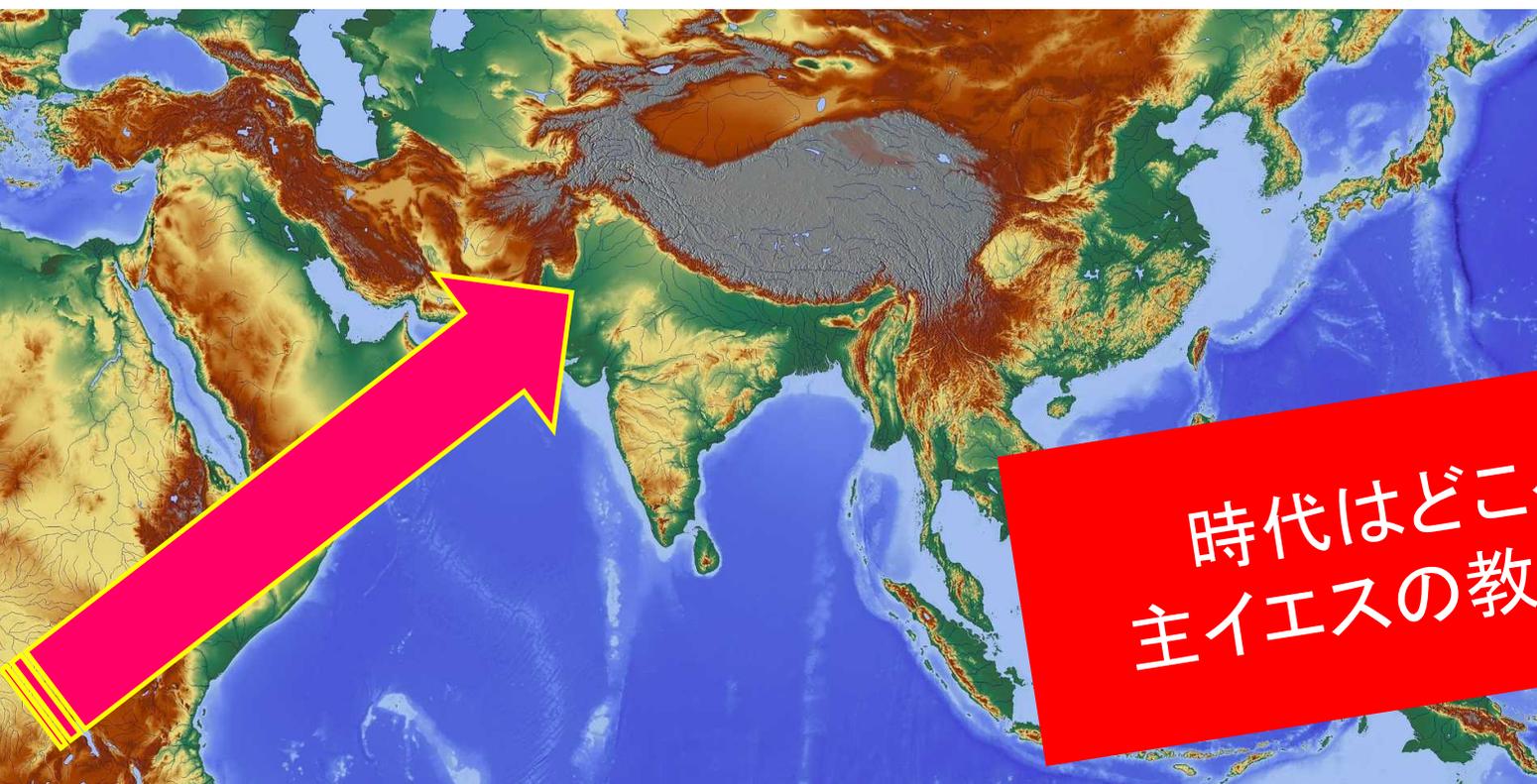


【バッタの害】

■ 昨年11月、東アフリカで発生したバッタの大群が、近年ない速度で激増。農作物に甚大な被害が。中東を抜け、アジアのパキスタンまで渡来。



時代はどこへ向かうのか？
主イエスの教えから読み解こう!!



主イエスに学ぶ終末論

～オリーブ山の説教から～

ルカ福音書21章5～36節



【イエス・キリストの公生涯】

イスラエル
(指導者)

① 観察

② 審問

③ 審判

洗礼・バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

ガリラヤ伝道開始

安息日(律法解釈)論争

十二弟子の選抜・派遣

メシア的奇蹟

ベルゼブル論争

たとえ話

ゲラサ・長血の女の癒し

五千人の供食

ペトロの信仰告白

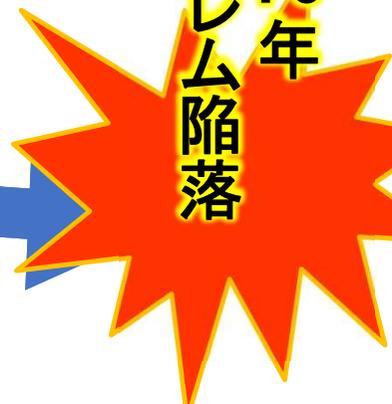
山上の変容

エルサレム入城

オリブ山の説教

最後の晚餐

紀元70年
エルサレム陥落



イエスは、神殿での最後の論争で、
祭司、パリサイ人、律法学者の挑戦をことごとく退け、
彼らの偽善を徹底して暴いた。

その後、神殿の豪華さへの人々の賞賛を聞いたイエスは、
弟子たちに、間近に迫る来る神殿の崩壊を告げた。
さらに、終末に起こる出来事について警告した。

それが、“オリーブ山の説教”と呼ばれる
イエスの公生涯最後のメッセージ。



【弟子たちの質問】 ルカ21:5~7

宮がすばらしい石や奉納物で飾ってあると話していた人々が
あった。するとイエスはこう言われた。

「あなたがたの見ているこれらの物について言えば、石がくずさ
れずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。」

彼らは、イエスに質問して言った。

「先生。それでは、これらのことは、いつ起こるのでしょうか。
これらのことが起こるときは、どんな前兆があるのでしょうか。」

これらのこと ⇒ “主の日”と呼ばれる、
この時代の終わりの一連の出来事

【終末論の理解が難しい理由】

- 起きる順番と説明の順番が違う!!
- 出来事と出来事との間の距離感が分からない。
その間に何年あるのか？



都庁と富士山の実際の距離は？
この写真では分からない!!

【今日のアウトライン】

0. 今という時代

I. ①教会時代全般

反キリスト、戦争、迫害

II. エルサレム陥落(AD70年)※

III. ②大患難時代

世の終わりの7年間

IV. ③携挙

V. まとめと適用

今を生きる心構えとは？

起きる順番

①教会時代

エルサレム陥落※

弟子たちの迫害

②携挙

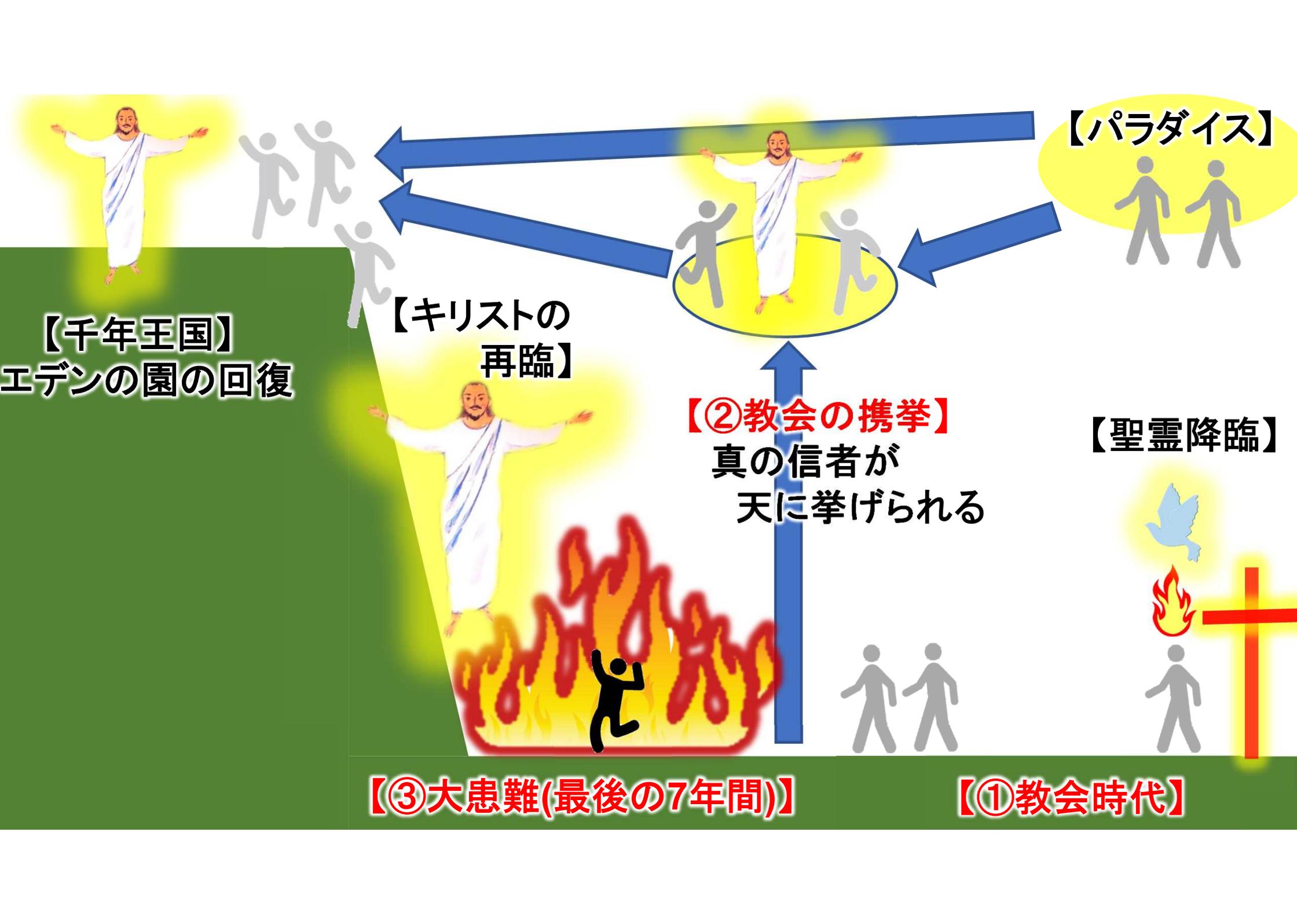
③大患難時代

天変地異・大災厄

イスラエルへの大迫害

イスラエルの民族的回心

主イエスの再臨



I. 教会時代全般

ルカ21:5~18

偽キリスト、戦争、迫害
そして、世の終わり



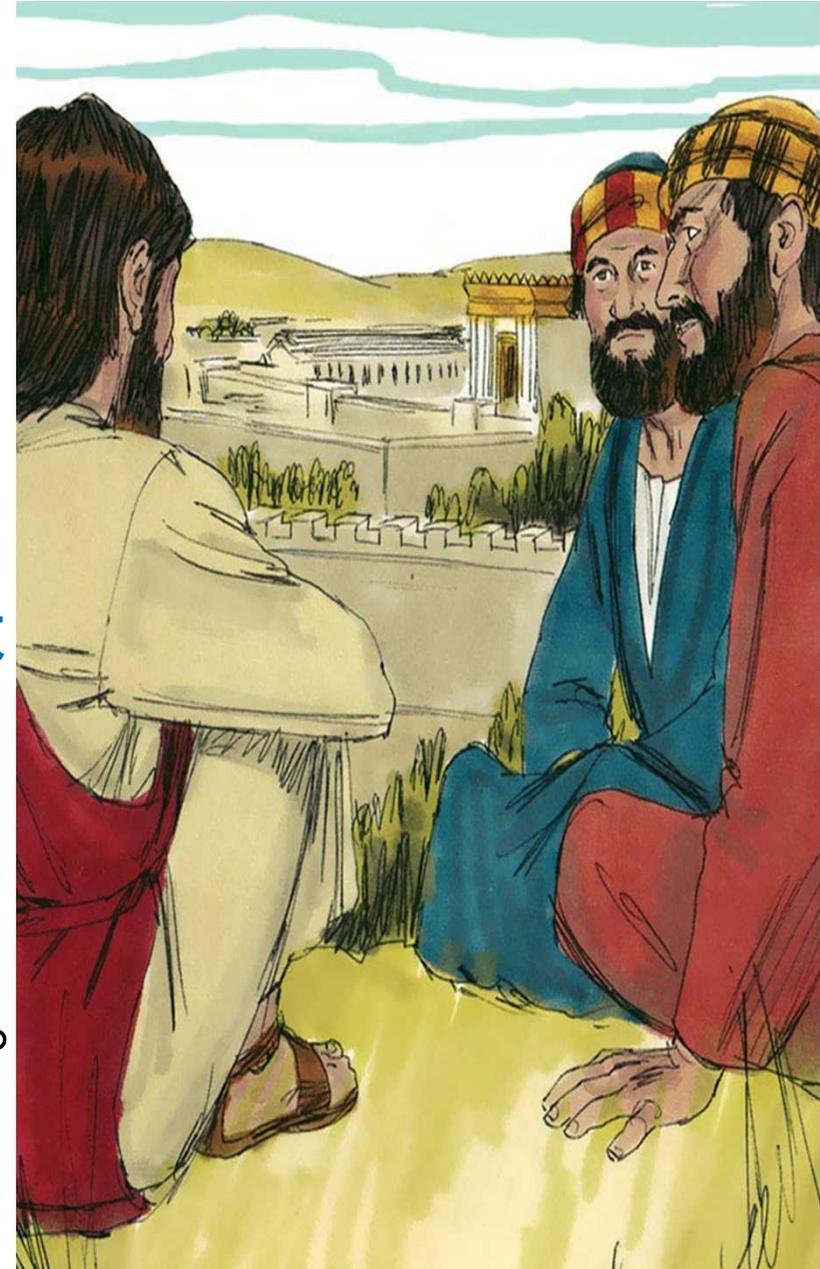
【教会時代への警告】 21:8~9

イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者*が大ぜい現れ、『私がそれだ』とか『時は近づいた』とか言います。そんな人々のあとについて行ってはなりません。

戦争や暴動のことを聞いても、こわがってはいけません。それは、初めに必ず起こることです。だが、終わりは、すぐには来ません。」

* 偽キリスト ...新天地の教祖もそのひとり。

■この時代には、戦争も争いも尽きない。



【メシア拒否以前に考えられていた神の国】

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

メシア到来と共に!!

【地上における神の国】

【奥義としての王国時代の始まり】 ...メシア拒否以降

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

≡教会時代

④奥義としての王国

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

メシア拒否

メシア受容

【地上における神の国】

【終わりの日の前兆】 ルカ21:10～11

それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり*、大地震があり、方々に疫病やききんが起こり、

* 世界大戦を現す ⇒1914年に勃発!!

■世界大戦は、終わりの日の前兆の一つ。

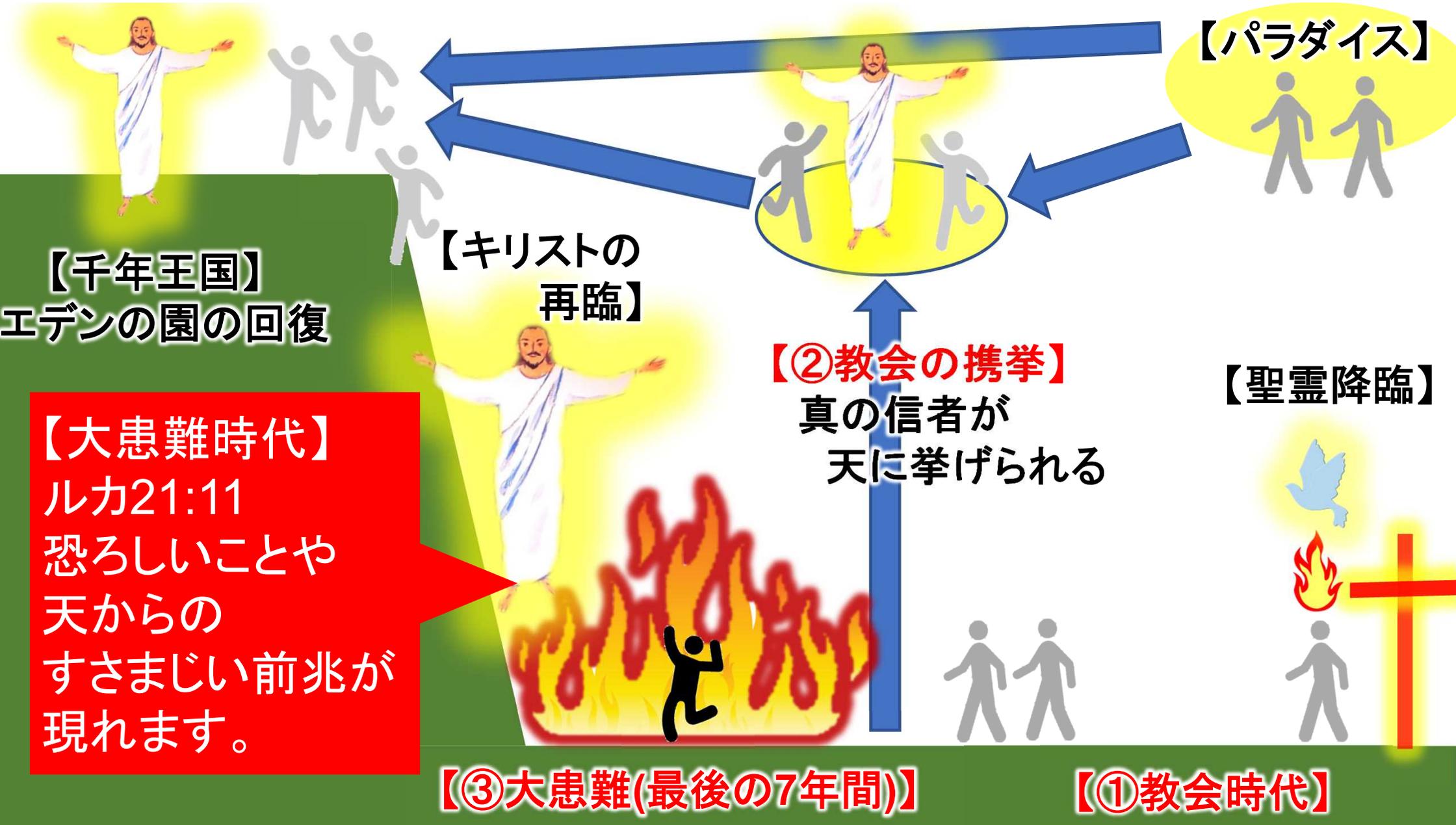
■20世紀以降、地震は激増の一途。

1918年、スペインインフルエンザの大流行。

以降も繰り返される疫病の流行。

貧富の差は広がり、世界的飢饉も拡大。



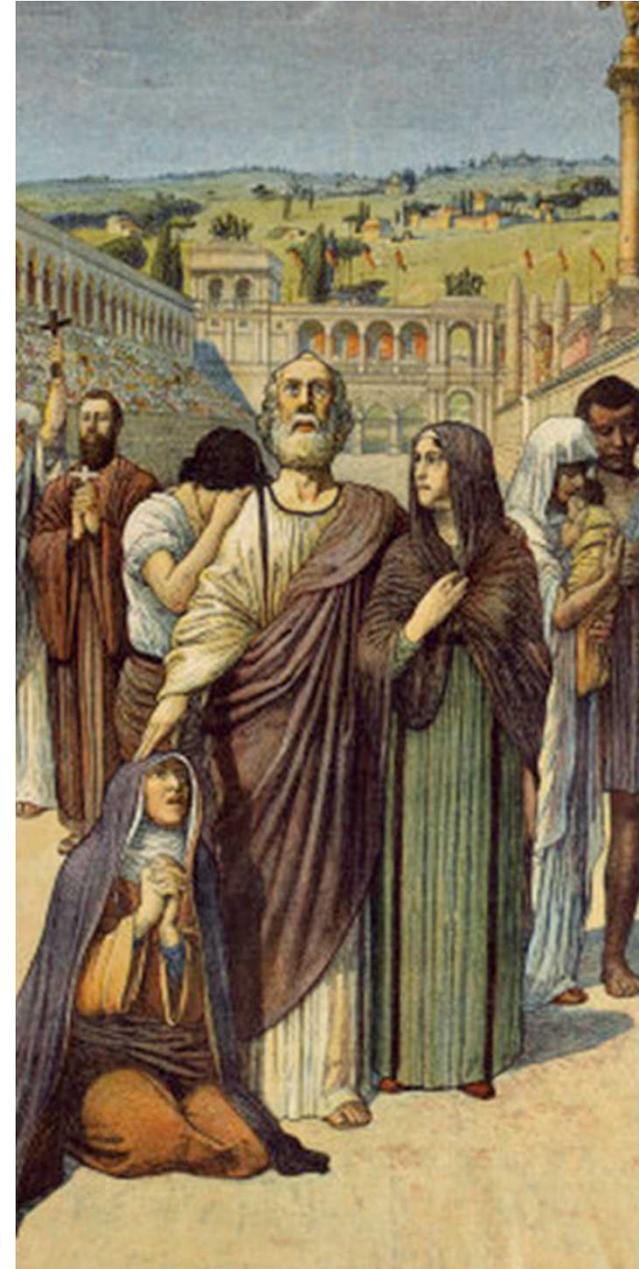


【弟子たちの将来】 ルカ 21:12～15

しかし、これらのすべてのことの前には、人々はあなたがたを捕らえて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出すでしょう。

それはあなたがたのあかしをする機会となります。それで、どう弁明するかは、あらかじめ考えないことに、心を定めておきなさい。どんな反対者も、反論もできず、反証もできないようなことばと知恵を、わたしがあなたがたに与えます。

- 弟子たちは、同胞のユダヤ人から、ローマから迫害を受け、その中で主を証した。
- 今も、世界各地でキリスト者への迫害が!!



【弟子たちの将来】 ルカ21:16～18

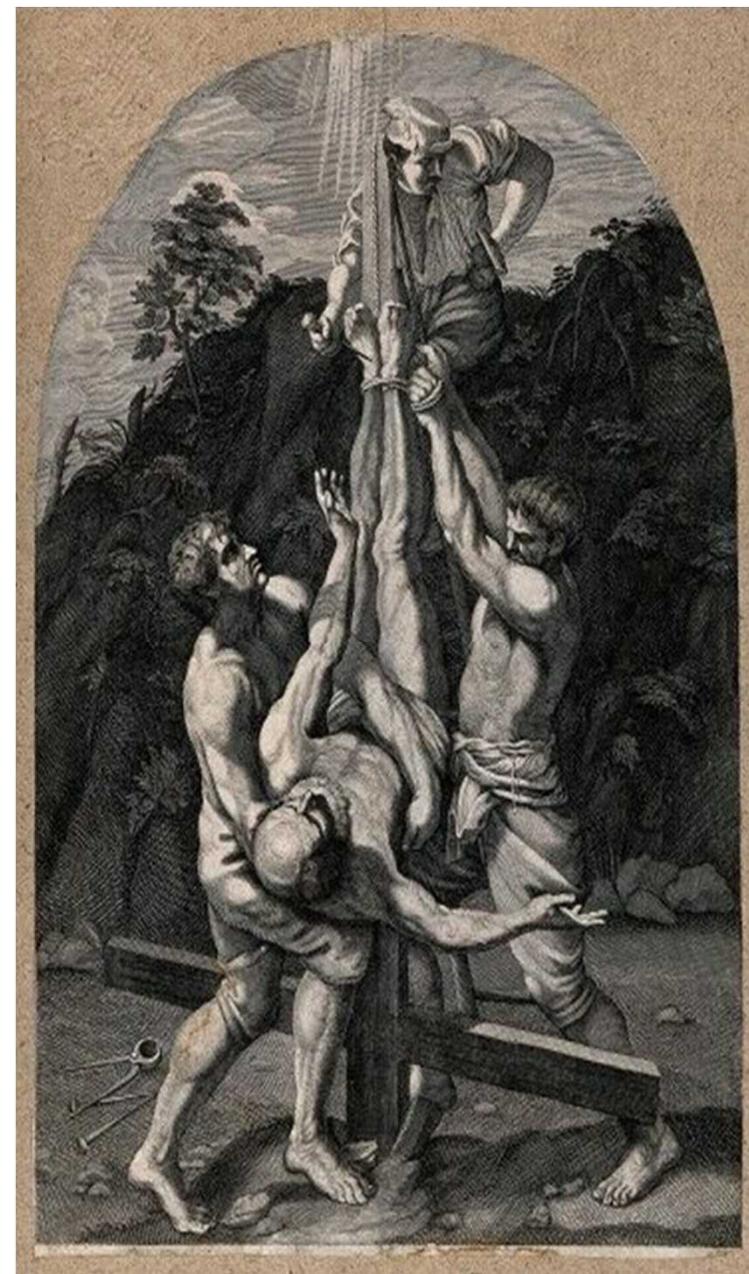
しかしあなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにまで裏切られます。中には殺される者もあり、わたしの名のために、みなの方に憎まれます。

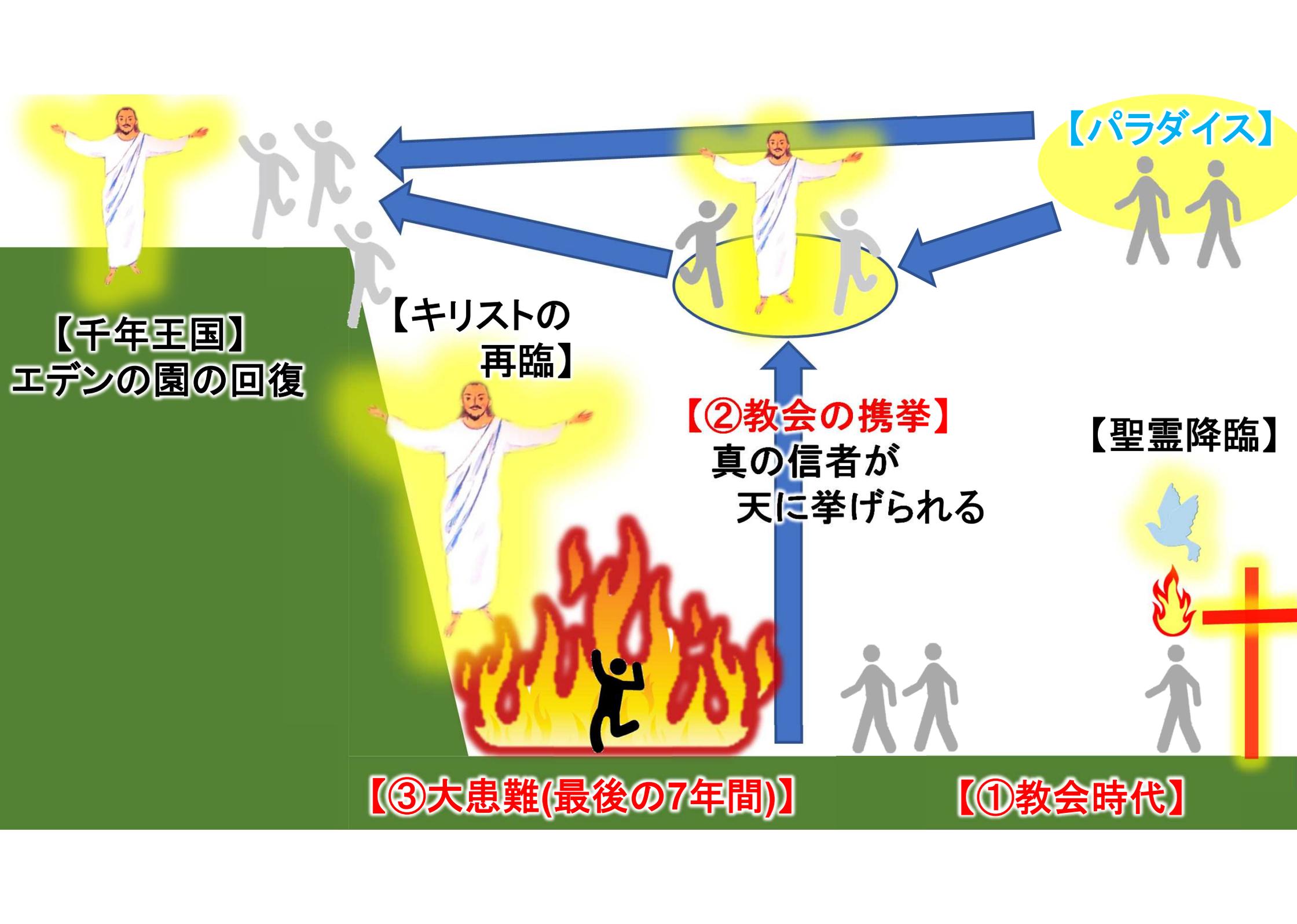
しかし、あなたがたの髪の毛一筋も失われることはありません。*

あなたがたは、忍耐によって、自分のいのちを勝ち取る*ことができます。

* 神のゆるしなしには、ということ。

* 神の国で永遠の命をあたえられる。







Ⅱ. エルサレム陥落の予告 (紀元70年)

ルカ21:20~24

【イエス・キリストの公生涯】

イスラエル
(指導者)

① 観察

② 審問

③ 審判

洗礼・バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

ガリラヤ伝道開始

安息日(律法解釈)論争

十二弟子の選抜・派遣

メシア的奇蹟

ベルゼブル論争

たとえ話

ゲラサ・長血の女の癒し

五千人の供食

ペトロの信仰告白

山上の変容

エルサレム入城

オリブ山の説教

最後の晩餐

メシアを拒む大きな罪を犯した
この世代のイスラエルへの裁き

紀元70年
エルサレム陥落



【エルサレム崩壊の予告】 ルカ21:20～22

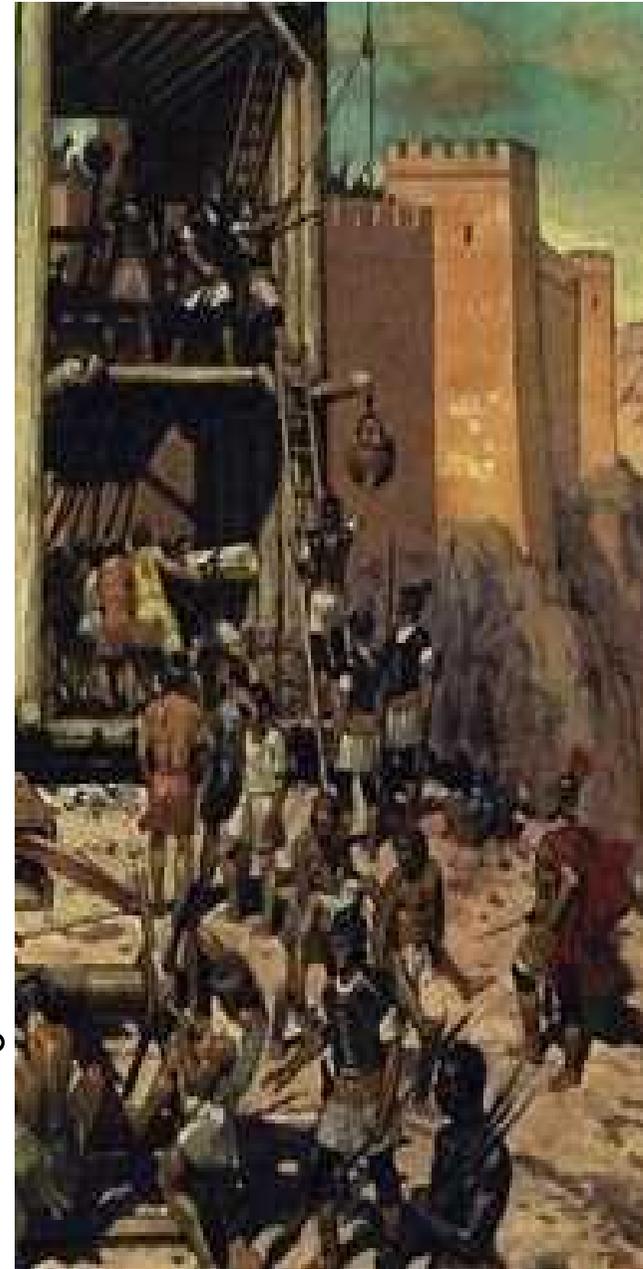
しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都に入ってはいけません。

これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからです。

■ 約40年後に起きたユダヤ戦争(66～74年)

- ・67年 ...ローマによるエルサレム包囲
他地域の反乱鎮圧のため包囲が一時解除。
⇒この間に、クリスチャンは、脱出。
- ・70年 ...エルサレム陥落。神殿の完全な破壊。



【ユダヤ人の離散】 ルカ21:23～24

その日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。

人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時*の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

* 主の再臨の時まで。

■ ユダヤ人は世界中に離散していった。

■ 1948年に、近代イスラエルが建国。

1967年に、エルサレム旧市街を併合。

⇒しかし、神殿の丘は、実質的には、
イスラム教徒が管理している。

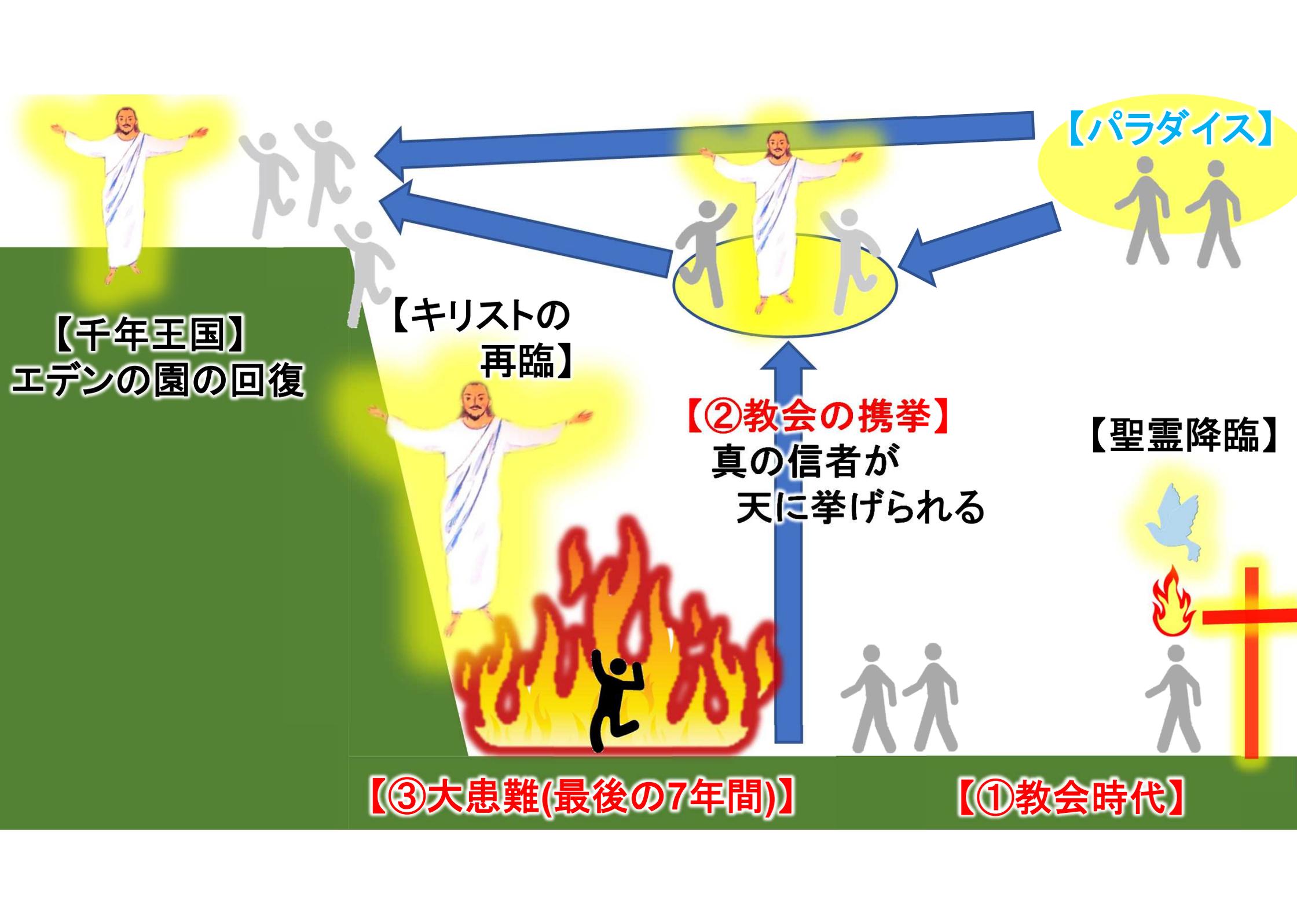




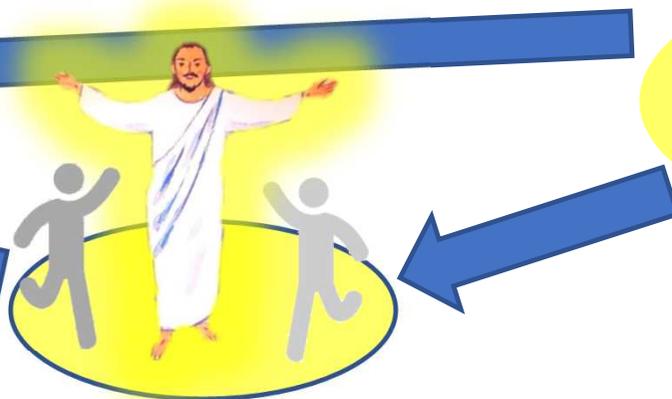
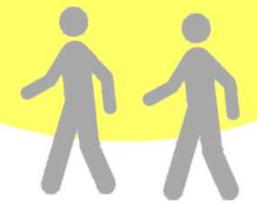
Ⅲ. 大患難時代

ルカ21:25～35

世の終わりの7年間



【パラダイス】



【②教会の携挙】
真の信者が
天に挙げられる

【キリストの
再臨】



【③大患難(最後の7年間)】



【聖霊降臨】



【①教会時代】

【千年王国】
エデンの園の回復



【大患難時代の7年間の大災厄】 ルカ 21:25～26

そして、日と月と星には、前兆が現れ、地上では、諸国の民が、海と波が荒れどよめくために不安に陥って悩み、人々は、その住むすべての所を襲おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。

前半の3年半

- ・七つの封印の裁き
- ・七つのラツパの裁き
- ・反キリストとイスラエルの平和条約
- ・ユダヤ人信者による世界宣教

後半の3年半

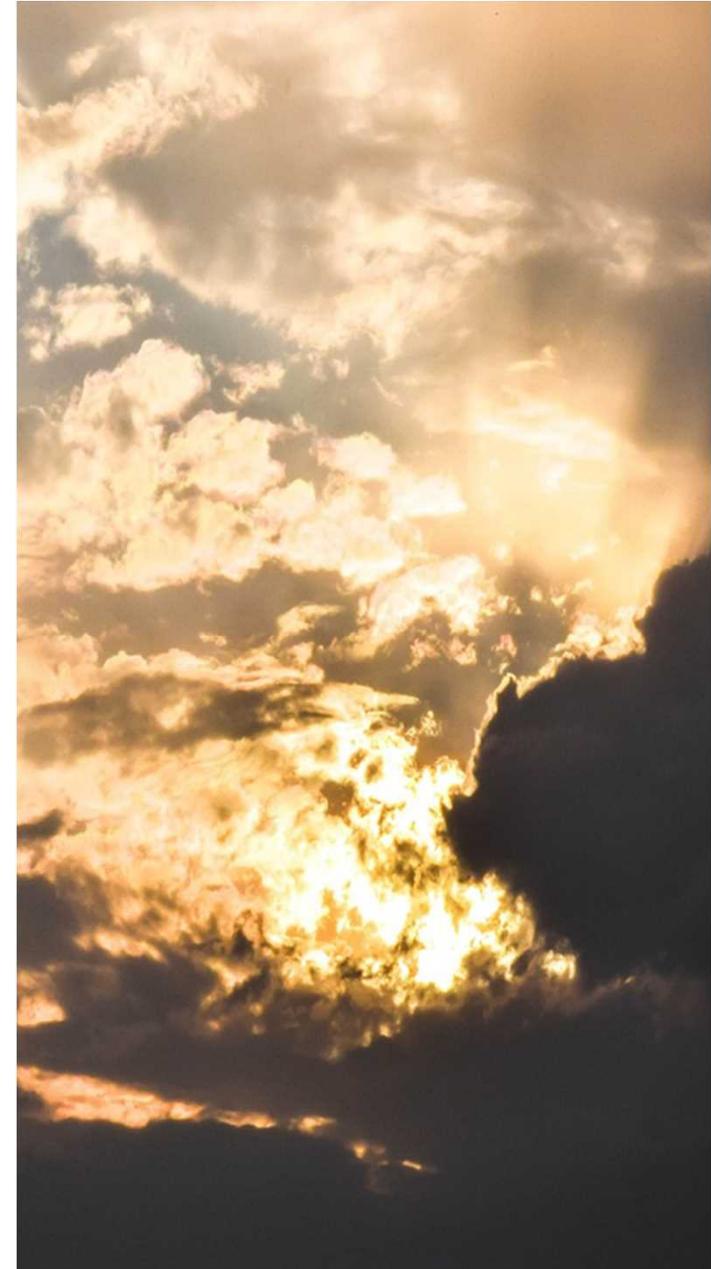
- ・七つの鉢の裁き
- ・反キリストによるユダヤ人大迫害
- ・ユダヤ人殲滅のための最終戦争

- 大患難時代は、イスラエルに対する最終的な裁き。
全人類の2/3が死に、全世界の2/3が破壊され尽くす。

【主イエスの再臨】 ルカ 21:27～28

そのとき、人々は、人の子が力と輝かしい栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上になげなさい。贖いが近づいたのです。」

- 全滅の危機の中で、ユダヤ人が民族的に回心。自分たちが殺したナザレのイエスこそ、メシアであると信じ、メシアを求める。
- それに応じて、王の王として主イエスが再臨。瞬く間に敵を滅ぼし、敵の血で赤く染まった足で、オリーブ山の上に立たれる。



【すべての前兆を経て】 ルカ 21:29～31

それからイエスは、人々にたとえを話された。
「いちじくの木や、すべての木を見なさい。
木の芽が出ると、それを見て夏の近いことが
わかります。そのように、これらのことが起こる
のを見たら、神の国は近いと知りなさい。」

- 黙示録にまとめられた大患難時代の災厄。
 - ・ そのすべてが起こり、最終戦争で
ユダヤ人が民族的回心に至った後、
 - ・ キリストは、王として再臨され、
神の国・千年王国を築かれる。

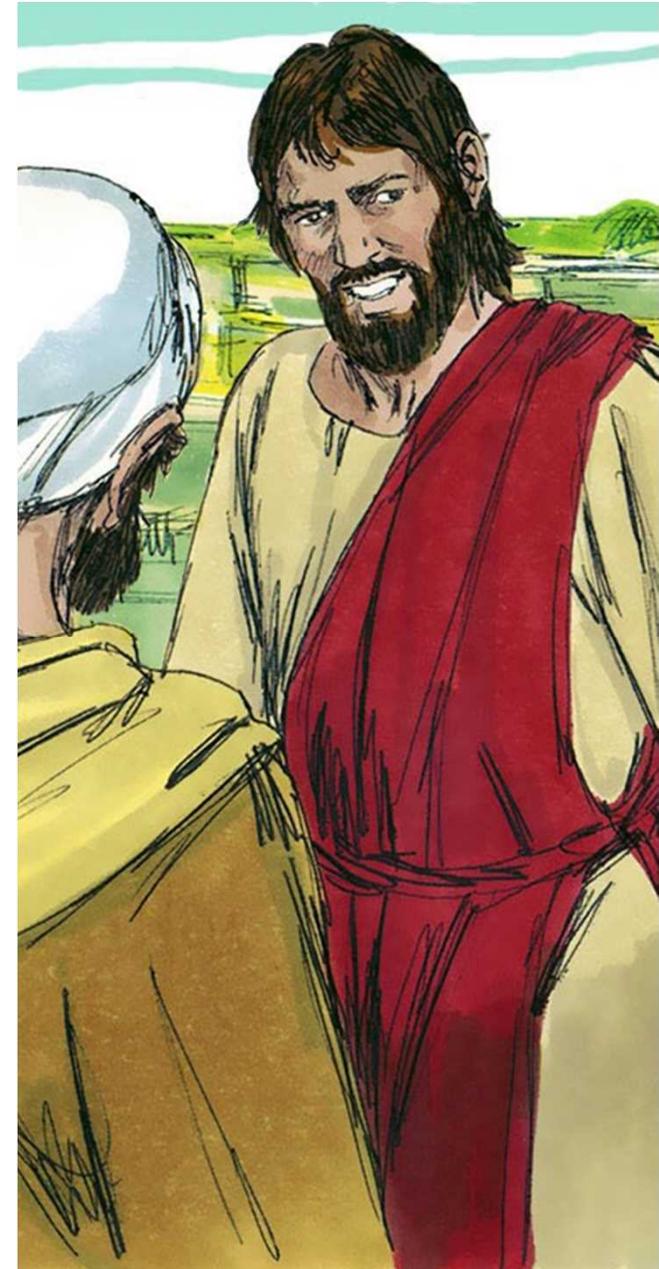


【主イエスの再度の警告】 ルカ 21:32～35

まことに、あなたがたに告げます。すべてのことが起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

あなたがたの心が、放蕩や深酒やこの世の煩いのために沈み込んでいるところに、その日がわなのように、突然あなたがたに臨むことのないように、よく気をつけていなさい。その日は、全地の表に住むすべての人に臨むからです。

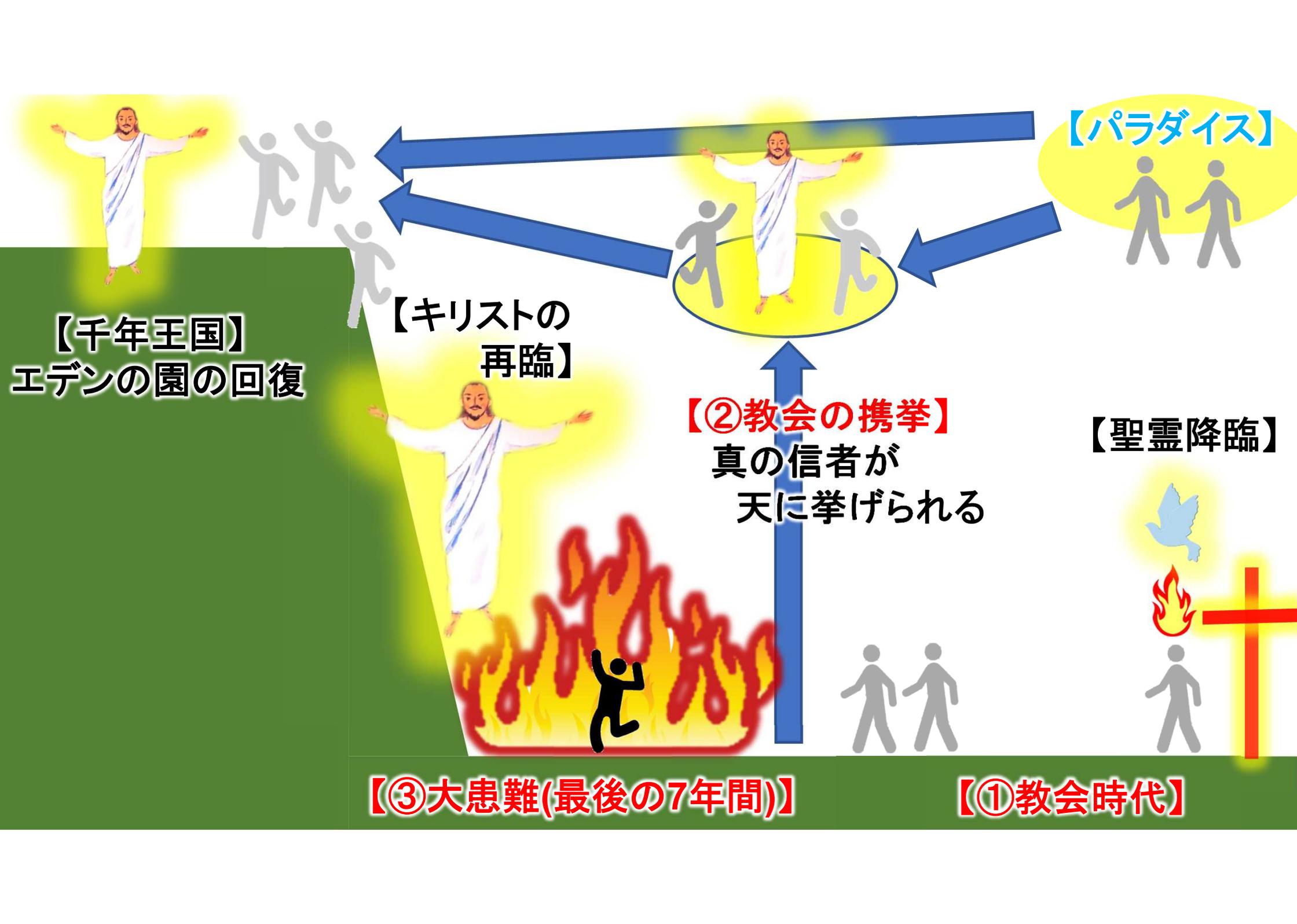
- 主イエスの警告に心を傾けない多くの方は、備えもなく、大災厄に巻き込まれていく。





IV. 携挙

ルカ21:36



【求められる信者の携挙への備え】 ルカ21:36

「しかし、あなたがたは、やがて起ころうとしているこれらすべてのことからのがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈っていなさい。」

- 信者は、大患難時代の災厄を免れる。
⇒それが、**携挙**。
- ある瞬間、突然、すべての真の信者が、
主イエスのもとに挙げられる。
- 携挙は、いつ起きるか分からない!!
この時代、最も身に迫った出来事が携挙!!



最も身近な携挙について、
主イエスは最後に通告!!

【携挙とは？】 I テサ 4:16~18

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ*、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

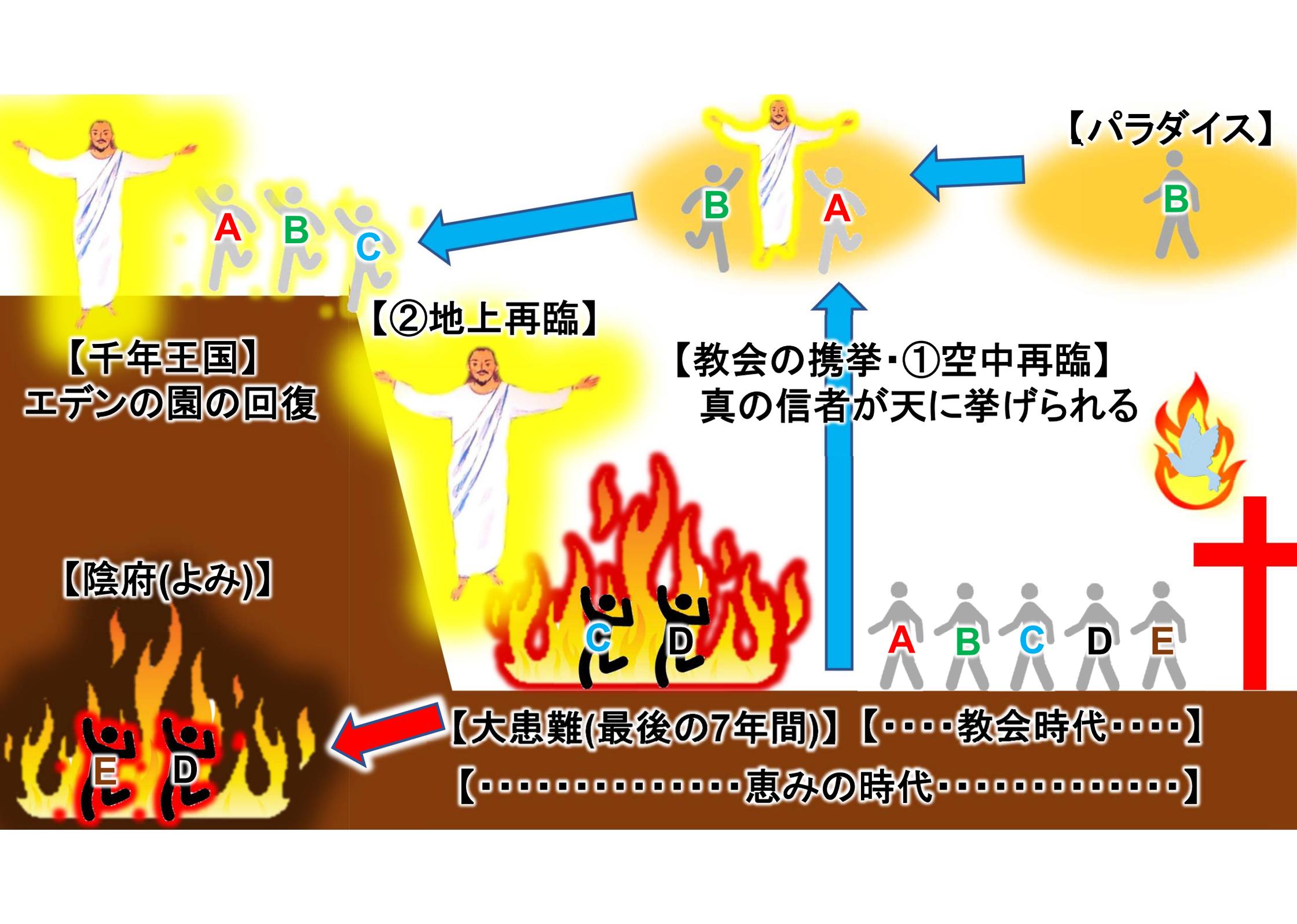
* ハルパザー ...さらう、捕まえて連れて行く。



V. まとめと適用

今を生きる心構えとは？





【大患難時代は、世界の大リフォーム!!】

■家をリフォームするとき、住民が最初にするのは？

➡引っ越し

**■携拳とは、大患難時代の前に、
信者が、天に一時的に引っ越しすること!!**

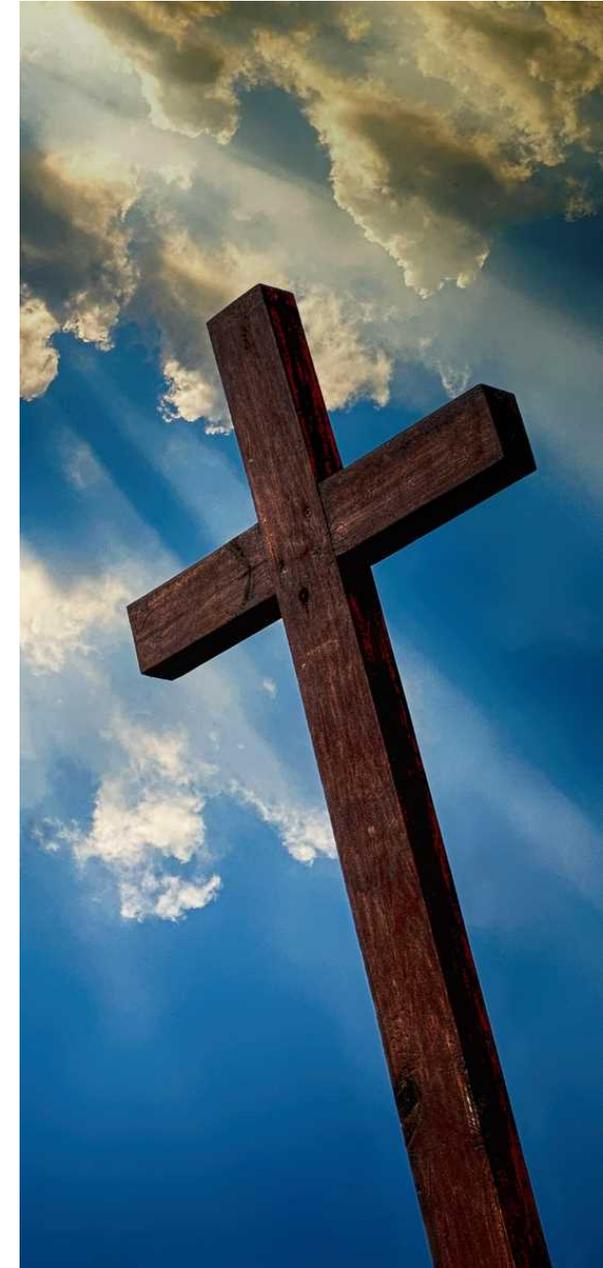
**➡残された人々は、
世界の大リフォームにまきこまれる!!**

**■大患難時代の後、すべての信者は、
新しい世界に、王なる主イエスと住む。**



【今という時代をおさえよう】

- 今は、教会時代。恵みの時代でもある。
 - ★教会時代 ⇒ペンテコステから携挙まで
 - ★恵みの時代 ⇒大患難時代の終わりまで
- 戦争や暴動は起こる。
- 世界大戦があり、大地震も頻発し、疫病や飢饉も起こる。
- 新型コロナウイルスも、バツタの大発生も、起きるべくして起きていること。
- しかし、まだ、世の終わりではない!!
最悪の大患難を、真の信者は免れる。



【今の時代のクリスチャンの使命】 II コリ6:2

神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに
答え、救いの日にあなたを助けた。」

確かに今は恵みの時、今は救いの日です。

- なぜ、今が恵みの時、救いの時なのか？
- 主は、1人でも多くの人を救うために、
裁きの時を遅らせておられる。
- 今の時代の苦難は、人々の目を開かせ、
神の救いを受け入れるために与えられたもの。
- 救いの福音を述べ伝え、
神の計画の全貌を解き明かしていこう!!
それが、クリスチャンに与えられた使命!!



【今の時代のクリスチャンの使命】 II コリ 6:3~10

私たちは、この務めがそしられないために、どんなことにも人につまづきを与えないようにと、あらゆることにおいて、自分を神のしもべとして推薦しているのです。

すなわち非常な忍耐と、悩みと、苦しみと、嘆きの中で、また、むち打たれるときにも、入獄にも、暴動にも、労役にも、徹夜にも、断食にも、また、純潔と知識と、寛容と親切と、聖霊と偽りのない愛と、真理のことばと神の力とにより、また、左右の手に持っている義の武器により、また、ほめられたり、そしられたり、悪評を受けたり、好評を博したりすることによって、自分を神のしもべとして推薦しているのです。

私たちは人をだます者のように見えても、真実であり、人に知られないようでも、よく知られ、死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。

【世のただ中で、世と分離されて生きる。】 IIコリ6:14～18

「不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。

キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者とに、何のかかわりがあるでしょう。

神の宮と偶像とに、何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われました。

「わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

それゆえ、彼らの中から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。汚れたものに触れないようにせよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。」

「天のお父さま。わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。
主(しゅ)イエスは、ふたたびこられ、信じる者すべてを
天(てん)に挙(あ)げ、来(きた)るべき裁(さば)きから
救(すく)ってくださいます。
今(いま)は、恵(めぐ)みのとき、救(すく)いのときです。
わたしたちを遣(つか)わし、用(もち)いてください。
主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。
アーメン」